

松本

北鎌尾根～西穂高岳

“ゴールデンウィーク山行”報告

期間 S49.4.28 ~ S49.5.4

Member CL. 石川道裕(2-3)・SL 尾和正彦(2-2)
野口彰(4-3)・川瀬亨(2-2)
福井修(3-1)

○ 行動記録

4月28日 ①

松本 ~~大町~~ 大町 —— 葛温泉 — 東沢山荘(7:45)
— 湯俣(10:15) —— 千天出合揃 T.S.(12:30)

葛温泉から東沢山荘までは、ダム工事のため荷物はトラックで輸送される。

登山者の多いのには参ってしまふ。東沢山荘で30分程トラックを待ち、4Pほどで千天前の橋の所に着き、ツェルトを張る。時間が余るので、千前の雪溪でグリセード、キックステップの練習をする。

4月29日 ② のち ①

“沈殿” 昨日の夜から今日の朝にかけて、丸中西に発生した三ツ玉低気圧のため、雨が降り沈殿。昼から晴れたが、この日から出発しても、たいては進めないのので、前の雪溪で、グリセード、キックステップの練習。

4月30日 ① 時々 ② 後 ④

T.S.(4:40) — 取付き(5:15) — 北鎌線線(6:10)
— 北鎌のゴル(9:30) — 独標千前のゴル T.S.(11:00)
北鎌尾根の線線は残雪が多かったが、人が多く通っているため、立派なステップがついており、北鎌のゴルまでアイゼンなしで進む。P7では少しアイゼンが欲しい所があった。天候もくずれきたし、計画通りに進んでいるので、独標千前のゴルに

ツェルトを張る。

5月1日 ㊦

“沈殿”朝から小雪が降っているので沈殿。
他に3パーティーがテン張っている。特に下の
社会人パーティーがうるさい。人が多いので、
いやになる。

5月2日 ㊦

T.S.(5:00) — 独標(6:15) — 北鎌平(8:15) — 槍(9:20)
— 南岳 11:00 — 南岳避難小屋(11:50)

独標手前の岩峰で30分の順番待ち。独標を越
えると、たいした上り下りもないままに、北
鎌平へ着く。槍に10人程取り付いているので
めしむ食いながら、30分程順番待ち。アングイル
の用意をして出発したが、結局ステップがしっかりし
ていたのでノーギルで進む。槍のピークから
肩の小屋まで慎重に下る。小屋でビールを買
った後、それだけを楽しみに南岳避難小屋ま
で行く。小屋は雪で埋まっていた。

5月3日 ㊦

T.S.(5:10) — キレット(5:50) — 北穂(7:30) —
沢岳(7:20) — 奥穂(10:20) — ロバの耳手前の
コル(11:05)

滝谷の岩壁を望みながらキレットを下る。
北鎌よりエラカク。滝谷側に注意して
進む。北穂から奥穂への稜線は、人が多く
教珠つなぎになる。奥穂で少し休み、ナイ
リッジの稜線を進む。ロバの耳手前のコルへ下
る所が急でアイゼンをきかしながら慎重に
下る。昼からは、明日のグリセードに備え、
ストップの練習をする。

5月4日 ㊦

T.S.(7:05) — 天狗のコル(8:05) — 南岳手前のコル
間の岳(9:20) — 南の岳手前のコル(9:40) — (7:00)
岳三R(10:10) — 上高地(11:20)

朝から風が非常に強く、風が和らぐまで待つ。30分程の順番待ちの後ロバの耳のトラバースを慎重にやる。山の兵手前の から西穂をピストンしようかと思。たが、南の兵のピークからの西穂はだいぶ遠く見え、人がアリの様にへぼりついでいるので、スグをなくし、山の沢をブリセードでいさぎに下る。

(宅和・記)

◎ ESSEN 係 “反省” “福井 修”

ESSEN 係としては、まず軽量でかまびらな事に重点を置いて、液として水や事やウソリーの臭はニの次にした。この方針自体はかなり成功したと思。ていらく宅和君がサブがクで行けた。しかし物足取なからた事と確がで、その臭についでには言葉がなからし夜し私自身は体重は減らなからたし、腹が全解さけなからた様な事もなからたので、あ水は、始水で良かったと思。う。(俺は体重も減らしたし、腹もへした、川せ) 次に今回の Essen のサブ、な臭についで。朝食がスキムミルク、カボチは時間的にも早く軽いし、これからも取り入れたいのではないが(小ト教の時)。安くで軽くで栄養満足の“に干し”係は、これでもあきもくる様だ。ピーナッツは少々値が高いけれど、栄養値高く、腹もるが良い(消化悪い)。塩分がとれて、あきがこないものでまますでであろう。とす湯についで。水さえ得ら水水は腹を一応、とすませる事が出来るので、片栗粉さえあ水ばかりなので簡単である。Essen はすべての山行で同じ様なものではなく、定着なら適当にせりたくに、縦走なら軽く適当は腹もよくれ、登ハツな事軽く、又かさは、と山行毎に変わるべきである。時間

春山合宿 報告

期間 S49. 3/12 ~ 3/

Member C.L. 小川邦一 SL 古川道裕 加賀瀬 豊彦
 尾崎一紀 宅和正彦 川瀬 亨
 福井 修

行動記録 (本隊)

3/12 長野(7:20) — 戸隠 宝光社(8:20) — 天狗原(B.C.)
 ① 雪がしっていてツカンは不用。(12:00)

3/13 6:30 ダイレクト尾根パーティー出発
 (加賀瀬・尾崎)

6:45 本隊 出発 P1 校

8:30 キンゴ雪 アイブリッジにソックス

9:20 春山合宿と左報告 ラバース, ソックス

期間 S49 アイゼン装着

10:20 雪壁の下。古川小川噴霧器着。加賀瀬
 尾崎の状況悪く前進不可。川瀬

11:05 下降

12:00 通信 (下降が指伝わる)

3/13 12:30 B.C. — 戸隠 宝光社(13:20) — 天狗原(B.C.)

① 雪がしっていてツカンは不用。(12:00)

3/14 6:10 B.C. 発

3/14 7:45 昨日のソックス 凍結
 (凍結した筋の雪がくずれて来り)

8:45 本隊 コゴと直登 P1 校

9:20 昨日の下降点より少し上った所
 (海と同樹高) で氷さなだれが発生し

期間 S49 退却 2 度

11:30 B.C. 着 戸隠 宝光社 噴霧器着

3/15 ○ 天狗原 BC 徹収 出発 (7:00)

7:45 尾根の途中 一本

尾根の側面はスキーに適する雪原になって
いる。対面の南向斜面は雪がとけている。

8:20 尾根を登りきった地裏
スキー装着 (福井、加賀瀬)

7:00 広い雪原の大木の下
スキーのペースに合わせて歩くので、バテバテ

9:30 戸隠奥社参道わき (B.C)

10:30 小川 古川 尾崎 偵察発

14:15 帰天

3/16 6:25 カポート隊 出発

①→② (加賀瀬、尾崎、宅和、福井)

6:30 八方目尻 アタック隊 出発

(小川、古川、川瀬)

7:00 尾根上、合流

7:30 百向長屋 アイゼン装着

フックス

10:20 蟻の塔 渡守前。カポート隊+川瀬 下降
アップ ガイロ 2P, フックス回収

11:15 百向長屋

12:40 B.C 着

3/17 7:00 B.C 徹収

② 7:40 丸山付近

9:00 戸隠 牧場 B.C 設営

3/18 6:30 B.C 発

② 9:00 五地蔵山 ビーク

五地蔵山を回り 30 分程 八方目尻 パター
を待つ

11:30 B.C着

3/19 下山

◎→◎ 中社よりバスにて、長野へ。

○ダイレクト尾根 行動記録

3/13 6:25 天狗原 B.C 発

7:05 二股

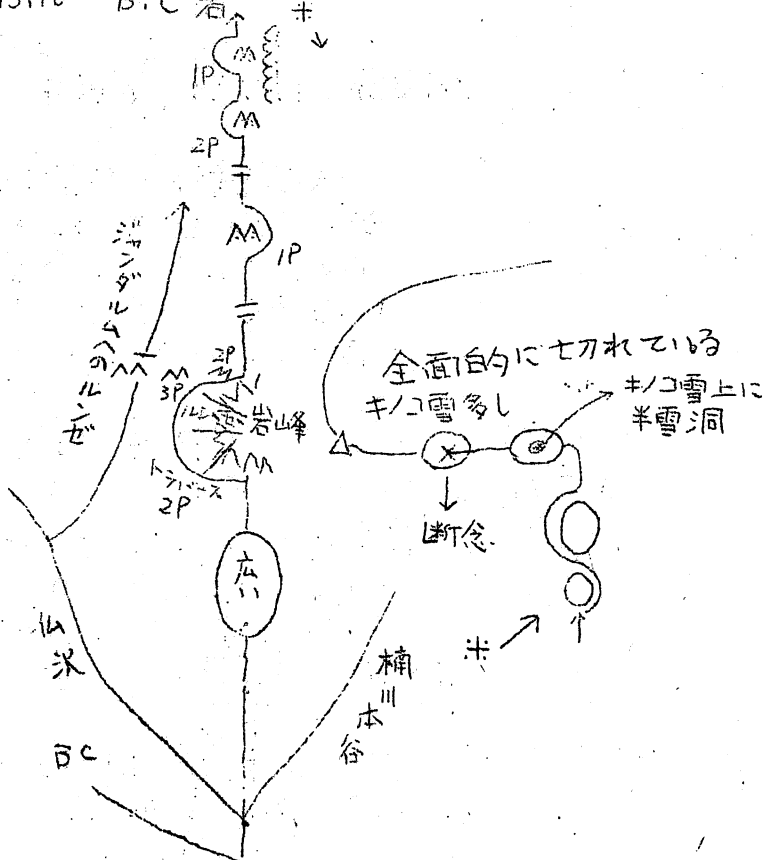
8:30 無名山峰基部

15:20 シェンダルク手前 コル

3/14 7:10 出発

7:50 キノコ雪を扱けた所で引き返す
(雪の状態が悪い)

13:10 B.C着



○八方脱 P. 行動記録

3/16 10:20 以後

蟻の塔渡り 剣の刃渡りを通過
幅の狭い雪稜、岩稜上を歩く

11:30 八方脱避難小屋

戸隠山を経て

15:00 一不動避難小屋

小屋の中には空の斗カンが散在

3/17

⊗

沈殿

3/18

本隊との交信で、一不動避難小屋より
1/Pで五地蔵山のピークへ到着する様
に急ぐ。アハアハ！で本隊と合流

発行

信州大学山岳会 長野山岳部

1974. 5. 18.